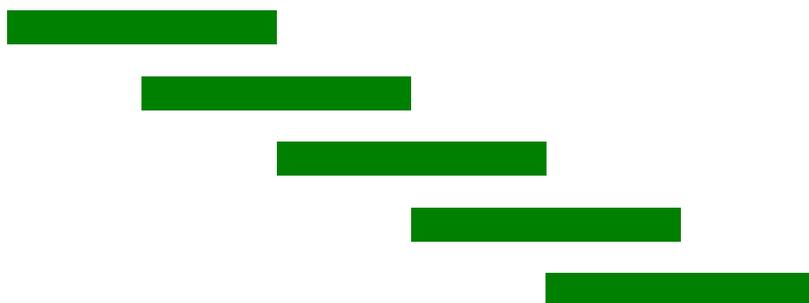


# 77回生からの読書案内

(高校生)



甲南女子中学校・高等学校 図書館

# 読書案内の見方（高校生）

著者名 『書名』（出版社）	請求記号
------------------	------

◆紹介者がまとめてくれた、あらすじ

【紹介者がこの本を読んだ学年】

【紹介者のお勧めのひとこと】

（紹介者の氏名）

（請求記号を記載していない本は、本校図書館では所蔵していません。）

## 目次

お勧めの本は、日本人の著者は姓名の五十音順に、  
外国人の著者は姓名のアルファベット順に並べて、掲載しています。

逢坂冬馬	…… p. 1	菅野仁	…… p. 9
相沢沙呼	…… p. 1	貴志祐介	…… p. 9
浅倉秋成	…… p. 1	岸見一郎	…… p. 9
阿津川辰海	…… p. 1	桐野夏生	…… p. 10
安部公房	…… p. 2	呉勝浩	…… p. 10
綾辻行人	…… p. 2	コムドットやまと	…… p. 10
有川浩	…… p. 2	近藤史恵	…… p. 11
伊坂幸太郎	…… p. 2、3	坂木司	…… p. 11
石田衣良	…… p. 3	佐藤多佳子	…… p. 11
磯田道史	…… p. 4	潮谷駿	…… p. 12
井上真偽	…… p. 4	汐見夏衛	…… p. 12、13
今村翔吾	…… p. 4	重松清	…… p. 13
岩井俊二	…… p. 4	雫井脩介	…… p. 13
上橋菜穂子	…… p. 5	島田ゆか	…… p. 13
雨穴	…… p. 5	下村敦史	…… p. 13
宇山佳佑	…… p. 5	昭文社出版編集部	…… p. 14
江國香織	…… p. 6	白井智之	…… p. 14
太田愛	…… p. 6	新海誠	…… p. 14
尾形真理子	…… p. 6	菅原孝標女	…… p. 14
小川糸	…… p. 6、7	杉井光	…… p. 15
小川洋子	…… p. 7	須磨久善	…… p. 15
織守きょうや	…… p. 7	住野よる	…… p. 15、16
恩田陸	…… p. 8	瀬尾まいこ	…… p. 16
川口俊和	…… p. 8	高田郁	…… p. 17
川村元気	…… p. 8		
カンザキイオリ	…… p. 9		

太宰治	…… p. 17	山田悠介	…… p. 29
田中孝幸	…… p. 17	優衣羽	…… p. 29
知念実希人	…… p. 17、18	横溝正史	…… p. 30
辻村深月	…… p. 18、19	吉田修一	…… p. 30
友井羊	…… p. 19	吉野源三郎	…… p. 30
外山滋比古	…… p. 19	ユヴァル・ノア・ハラリ	…… p. 30
中村文則	…… p. 19	アガサ・クリスティ	…… p. 30
凧良ゆう	…… p. 19、20	アンネ・フランク	…… p. 31
梨木香歩	…… p. 20	アンソニー・ドーア	…… p. 31
夏川草介	…… p. 21	サン・デグジュペリ	…… p. 31
夏目漱石	…… p. 21	クリスティー・ワトスン	…… p. 32
七月隆文	…… p. 21、22	シンディ・スピーゲル	…… p. 32
並木陽	…… p. 22	ダニエル・キイス	…… p. 32
二宮敦人	…… p. 22	フョードル・ドストエフスキー	…… p. 32
灰谷健次郎	…… p. 22	ガブリエル・ガルシア・マルケ	…… p. 32
畠山健二	…… p. 23	J・K・ローリング	…… p. 33
原田マハ	…… p. 23	ジャン-ポール・サルトル	…… p. 33
東野圭吾	…… p. 23、24、25、26	ジェフリー・ディーヴァー	…… p. 33
百田尚樹	…… p. 26	ジョン・ボイン	…… p. 34
ぴよぴーよ速報	…… p. 26	マーガレット・ワイズ・ブラウン	…… p. 34
ブレイディみかこ	…… p. 27	スチュアート・リッチー	…… p. 34
辺見じゅん	…… p. 27	ティナ・シーリグ	…… p. 35
町田そのこ	…… p. 27	ウィリアム・シェイクスピア	…… p. 35
三浦しをん	…… p. 27		
水野敬也	…… p. 28		
湊かなえ	…… p. 28		
宮沢賢治	…… p. 28		
宮島未奈	…… p. 28		
村田沙耶香	…… p. 29		

逢坂冬馬

『同志少女よ、敵を撃て』（早川書房）

913.6/Ai

◆独ソ戦のさなか、ドイツ軍の襲撃で母親と故郷を奪われた少女が狙撃兵となり、復讐を果たすため、女性だけの狙撃隊の一員として過酷な戦場を生き抜く姿を描いた物語。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 登場人物一人ひとりの悩みや過去の苦しみなどを巧みに表現し、臨場感のある戦場シーンを交えながら、女性狙撃兵たちが死と隣り合わせの戦場で戦いぬく姿が描かれているので一度読み出すと止まりません。戦争についてあまり知らない人でもこの本を読むと戦争の悲惨さや異常性を改めて感じさせられると思います。ぜひ一度読んでもらいたいです。

(重光夏葉)

相沢沙呼

『medium～霊媒探偵城塚翡翠～』（講談社）

913.6/A

◆推理作家として難事件を解決してきた香月史郎は、心に傷を負った女性・城塚翡翠と出会う。彼女は霊媒であり、死者の言葉を伝えることができる。しかし、そこに証拠能力はなく、香月は霊視と論理の力を組み合わせながら、事件に立ち向かわなくてはならない。

一方、巷では姿なき連続殺人鬼が人々を脅かしていた。一切の証拠を残さない殺人鬼を追い詰めるために力を合わせて立ち向かう、という話。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】 読み進めていくと至って普通のミステリー本ですが、最後にまさかの展開が待っていて、今まで読んだミステリー本にはない結末でした。シリーズで出ているのでぜひお勧めしたいです。

(戸來樹咲)

浅倉秋成

『ノワール・レヴナント』（KADOKAWA）

913.6/A

◆幸せの偏差値が見える特殊能力を持つ僕が、並外れた偏差値を持つ同級生から幸せに関する招待券を受け取る。その会場に行ってみると、様々な特殊能力を持つ者達が集まっていた。4人は協力しながら謎に挑む。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 最後は感動し、クスッと笑えるような展開でした。なぜ特殊能力を持ったのか、なぜ同級生の偏差値だけ並外れているのか、という謎も解けて、読んだ後はスッキリします。

(迫上彩七)

阿津川辰海

『蒼海館の殺人』（講談社）

913.6/A

◆大型台風が迫る週末、M山の事件以来、不登校になってしまった葛城輝義に会うために、田所は友人の三谷を連れて彼の実家であるY村の青海館を訪れる。そこに住むのは政治家の父・健治朗と大学教授の母・璃々江、警察官の兄・正、トップモデルの姉・ミチル、認知症を患う祖母ノブ子で、この日は二か月前の8月下旬に持病の心臓病の発作で亡くなった祖父・惣太郎の49日の法要のために、叔母の堂坂由美と彼女の夫で弁護士の広臣、二人の息子の夏雄、ミチルの元カレの坂口、夏雄の家庭教師・黒田が集まっていた。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】 激しい雨が降り続くなか、館が沈めば探偵も、犯人も、全員死ぬという状況で起こる連続殺人。最後までハラハラする展開が続くので一気に読める作品です。

(早川結菜)

**安部公房**

**『砂の女』 (新潮社)**

913. 6/ア/(b)

◆砂丘へ昆虫採集に出かけた男が、砂穴の底に埋もれていく一軒家に閉じ込められる。男を穴の中にひきとめておこうとする女と、脱出を試みる男が描かれる。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 描写がはっきりしているので読みやすい。

(廣瀬純夏)

**綾辻行人**

**『十角館の殺人』 (講談社)**

913. 6/ア

◆大学のミステリーサークルに所属する7人が、半年前に未解決の殺人事件があった「角島」に向かう。その事件で亡くなった天才建築家・中村青司の実の娘もかつてミステリーサークルに所属していたが、不慮の事故で死亡。その後、元ミステリーサークルの男のもとへ、死んだはずの中村青司から手紙が届く。二つの場所で謎解きが始まるが、島ではミステリーサークルの仲間が次々に殺害され…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 最後のどんでん返しがすごいです。衝撃的でした。とても面白かったです。

(品川結香)

**有川浩**

**『塩の街』 (KADOKAWA)**

913. 6/ア

◆突然空から降る塩により人が塩化し衰亡していく中で、愛する人のために生き抜く人たちの恋愛物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ルールや常識までもが通用しないような荒んだ世界でただ大切な愛する人のために生きる様子が儂くて、いろいろと考えさせてくれるところです。

(竹内楓)

**伊坂幸太郎**

**『グラスホッパー』 (KADOKAWA)**

913. 6/イ

◆事故で恋人を亡くした中学校教師の鈴木は、事故が意図的に仕組まれたものだったと知る。復讐のため、裏社会の組織に潜入するが、ターゲットが目の前で車にはねられて死に、嘘がばれた鈴木は闇の組織から命をねられる。一方、事件の真相を知る新聞記者を狙う鯨、鯨をねらう蟬もすべてを清算するために、闇の組織のアジトへ向かう。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 かなり重いテーマなので、読み終わった後は疲れます。

(奥田清夏)

◆妻の復讐を目論む元教師「鈴木」。自殺専門の殺し屋「鯨」。ナイフ使いの天才「蟬」。三人の思いが交錯するとき、物語は動き出す。疾走感溢れる筆致で綴られた、分類不能の「殺し屋」小説。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 殺し屋が軸になって話が展開されますが、ありがちな殺人ストーリーではありません。記憶を消して、もう一度読みたい小説です。

(中川知奈)

伊坂幸太郎

『マリアビートル』(KADOKAWA)

913.6/イ

◆幼い息子の仇討ちを企てる、酒びたりの殺し屋「木村」。優等生面の裏に悪魔のような心を隠し持つ中学生「王子」。闇社会の大物から密命を受けた、腕利きの二人組「蜜柑」と「檸檬」。とにかく運が悪く、気弱な殺し屋「天道虫」。疾走する東北新幹線の車内で、狙う者と狙われる者が交錯する。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】2022年にブラッド・ピット主演で「BULLET TRAIN」として映画化されました。シリーズの第二作目で、前作に引き続き章の頭にハンコがあり、この仕掛けが非常に面白いです。

(山岡史歩)

伊坂幸太郎

『逆ソクラテス』(集英社)

913.6/イ

◆全5編からなる短編集です。すべての主人公が小学生であり、日常の理不尽に対して知恵と勇気を振り絞って立ち向かう物語が描かれています。特に、先入観を覆すことをテーマにしており、登場人物たちが成長していく様子が描かれています。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】少年たちが周囲の人との関わりの中で、悩みながらも前に進んでいく話です。時には疑問を抱いたり反抗したりしますが、その葛藤の中で立ち向かっていく姿勢に心を動かされます。5つの短編集で構成されているので読みやすいです。

メッセージ性が強く、伏線がどんどん回収されていくので読んでいて臨場感が感じられます。作中のおすすめは「逆ワシントン」です。

(今中明沙)

石田衣良

『清く貧しく美しく』(新潮社)

913.6/イ

◆この冷たい世界で、ぼくたちだけはお互いをほめあって生きよう。大手ネット通販の巨大倉庫で働く堅志とスーパーのパート勤務の日菜子はそう約束している。合わせて年収300万円台の暮らしは、慎ましくも幸せだった。だがある日、堅志に正社員登用の話が舞い込む。喜ぶ二人だったが、本社研修の担当は堅志のかつての恋人・佳央梨で……。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】結末に二人がそれぞれ大きな決断をするのですが、その内容は賛否両論あるかもしれません。私も読み終わってすぐは納得できませんでした。時間が経つと「こういう生き方もあるのかな」と心にじんわり沁みてきます。シンプルな恋愛小説であらすじにあまりひねりはありませんが、毎日が忙しく過ぎる現代、本当に大切なものは何かを見失っている人に是非読んでもらいたいです。作者がさすが恋愛小説の名手というだけあって、優しく繊細で上質な物語になっています。あなたはどんな生き方がしたいですか？そんなことを考える良い機会になるかもしれません。

(鈴木ゆずみ)

磯田道史

『無私の日本人』（文藝春秋）

281.04/イ

◆江戸に生きた三人の清廉な人物を歴史の中から掘り返し、その生涯を綴った感動の評伝。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 この本の中では、五穀屋十三郎、中根東里、大田垣蓮月という三人の江戸時代の人物が評伝という形で紹介されています。彼らはいずれも、「見返りを求めず、他のために尽く」した人物です。著者の磯田さんが、そんな三人の生き方を記述することを通じて、江戸時代の日本にあった「無私」の考え方を後世に伝えたいと後書きで語っている通り三人の生き様を通じて、今の自身の生き方を見つめ直すことができます。生き方に悩む高校生にこそ読んでほしい本です。歴史の本と聞くと難しいように感じますが全くそんなことはなく、読みやすい本です。ぜひ読んでみてください。

（北城充穂）

井上真偽

『ぎんなみ商店街の事件簿』（小学館）

913.6/Ino

◆商店街で起こった三つの事件について兄弟や姉妹が推理していく。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 brother編とsister編があり、同じ事件を2つの視点から見るができる。推理の展開が全く違うので、二冊読むともっと楽しい。

（吉田葵）

今村翔吾

『塞王の楯』（集英社）

913.6/Ima

◆最強の盾か、至高の矛か… 戦国時代、家族を失った主人公が石工として戦のない世を目指す。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 歴史を一通り学んだ今だからこそ深く心に響きます。

（吉川遙香）

岩井俊二

『スワロウテイル』（小学館）

所蔵なし

◆娼婦が歌手を目指す話。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】 アゲハの成長を見て感動する。胸元にアゲハ蝶のタトゥーを入れたくなる。

（藤澤夏帆）

上橋菜穂子

『獣の奏者』(講談社)

913. 6/ウ/1

◆ けっして人に馴れない、また馴らしてもいけない獣とともに生きる運命を背負った、エリンの壮大な物語が書かれたファンタジー小説。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】 風景の描写や登場人物の心情が美しく書かれており、独特の世界観に没頭することができるので、大人も子供も楽しめる小説です。

(佐藤陽奈)

◆ 10歳の少女・エリンは、母親と二人暮らし。母のソヨン、凶暴な生き物である「闘蛇(とうだ)」の世話をしているが、ある日、その「闘蛇」がいっせいに死んでしまう。その罪に問われて捕らえられるソヨン。けっして人に馴れない、また馴らしてもいけない獣とともに生きる運命をせおった、エリンの壮大な物語の幕開け。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 綿密に作りこまれた世界観と、その世界観のなかでのストーリーが進んでいくところがおすすめです。

(西崎柚稀)

雨穴

『変な家』(飛鳥新社)

913. 6/Uke

◆ 知人が購入を検討していた都内の中古物件はありふれた物件のように見えたが、その間取りをよく見てみると謎の空間が存在していた。その奇妙さに惹かれた主人公が、謎を解き明かすにつれて様々な事実が判明していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 後々わかっていく予想できないような隠された事実には驚かされるものの、そこには人の優しさもあって、ページをめくるたびに驚かされる。

(阿部美月)

雨穴

『変な絵』(飛鳥新社)

913. 6/Uke

◆ とあるブログに投稿された『風に立つ女の絵』、消えた男児が描いた『灰色に塗りつぶされたマンションの絵』、山奥で見つかった遺体が残した『震えた線で描かれた山並みの絵』これらの絵から、彼らは一体何を伝えたかったのか。その謎が解けたとき、9枚の奇妙な絵に秘められた衝撃の真実が一つに繋がる！

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 あなたは、何かがおかしい9枚の絵の「謎」が解けますか？ YouTubeで『変な絵』のあらすじが実写で投稿されているので、少しでも興味が湧いた方は一度見てください！

(伊藤恵)

宇山佳佑

『桜のような僕の恋人』(集英社)

913. 6/ウ

◆ 人より早く年を取る病気を患う女性と、その女性に恋した男性の話です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 日常の有り難さを改めて感じる事が出来ます。

(多月空)

**江國香織**

**『きらきらひかる』(新潮社)**

913.6/エ/(b)

◆情緒不安定でアルコール依存気味の主人公・笑子と、バイセクシュアルの内科医・睦月の生活を記した小説。睦月の恋人の男子大学生・紺との交際を容認しながら送る一般的とは言えない、静かで緩やかな結婚生活に降りかかるトラブルを解決しようと奮闘する物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】学生という身では関わりのない立場の人物が多く、初めて読んだ時は衝撃的でした。章ごとに視点が変わり、いわゆる、ノーマルではない登場人物達の感情を分かりやすく語りながら進むので、ページ数が比較的少ないながらも膨らみのある、見どころの多い作品です。

(藤原百花)

**太田愛**

**『幻夏』(KADOKAWA)**

913.6/オ

◆少女失踪事件を捜査する刑事・相馬は、現場で奇妙な印を発見し、23年前の苦い記憶を蘇らせる。台風一過の翌日、川岸にランドセルを置いたまま、親友だった同級生は消えた。流木に不思議な印を残して…。少年はどこに消えたのか？印の意味は？やがて相馬の前に恐るべき罪が浮上してくる。司法の信を問う傑作ミステリー。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】一つの冤罪がさまざまな悲劇を生み、司法と検察の闇が垣間見えます。私の中で1番、読後の余韻が消えない作品でした。

(中塚はる)

**尾形真理子**

**『試着室で思い出したら、本気の恋だと思う。』(幻冬舎) 913.6/オ**

◆恋愛に悩む女性が、路地裏のセレクトショップのオーナーと一緒に自分に似合う服を探すうちに、自分の素直な気持ちと向き合っていく物語です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】短編小説になっているので読みやすく、出てくる言葉も心に刺さるものが多いのでおすすめです。

(西蔵珠希)

**小川糸**

**『ライオンのおやつ』(ポプラ社)**

913.6/Oga

◆ひとり暮らしをしていた海野雫は医師から余命宣告を受ける。最後の日々を過ごす場所として瀬戸内の海が見えるホスピス「ライオンの家」を選んだ雫と仲間たちの命の輝き、出会いの素晴らしさを描いた物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】ホスピスと聞くと、治療不可能の病気を患った方が死を待つ場所のような、暗く悲しい場所のようなイメージがあった。しかし、残された時間を大切に生きる姿にとても心を打たれた。

(見通紗名)

小川糸

『ツバキ文具店』(幻冬舎)

913.6/0ga

◆鎌倉で小さな文具店を営みながら、手紙の代書を請け負う鳩子。今日も風変わりな依頼が舞い込む。友人への絶縁状、借金のお断り、天国からの手紙。身近だからこそ伝えられない依頼者の心に寄り添ううち、仲違いしたまま逝ってしまった祖母への想いに気づいていく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】手紙をいっぱい書きたくなります。鎌倉に住みたくなります。シリーズ三作まで出てるのでぜひ読んでみてください！

(北村杏奈)

小川洋子

『博士の愛した数式』(新潮社)

913.6/オ/(c)

◆不慮の交通事故で、天才数学者の博士は記憶がたった80分しかもたない。何を喋っていいか混乱した時、言葉の代わりに数字を持ち出しました。それが、他人と話すために博士が編み出した方法でした。相手を慈しみ、無償で尽くし、敬いの心を忘れず、常に数字のそばから離れようとはしませんでした。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】「私」とその息子「ルート」の心のふれあいを、美しい数式と共に描いているところ。

(安丸千晶)

◆記憶が80分しかもたない博士と家政婦の話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】数式がたくさん出てきて難しい部分もあるが、深い絆で結ばれた人間関係に胸を打たれる。

(文原咲果)

織守きょうや

『記憶屋』(KADOKAWA)

913.6/オ

◆主人公の大学生はある日突然大切な人の記憶が消えてしまい、忘れたい記憶を消してくれる都市伝説の怪人と噂される記憶屋の正体を探り始めます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】記憶を消すことによる幸せもあるのかもしれないと考えさせられるお話。

(水田璃子)

恩田陸

『夜のピクニック』（新潮社）

913.6/オ/（c）

◆高校生活最後のイベントである「歩行祭」。それは全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通すという、北高の伝統行事だった。主人公の甲田貴子は3年間誰にも言えなかった秘密を清算するという密かな誓いを胸に抱いて、歩行祭にのぞんだ。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】茨城県の学校で実際に行われている行事を元に書かれた小説で、映画化もされた「夜のピクニック」。ぜひ気になった方は読んでみてください。

（石橋怜花）

◆高校生が「歩行祭」という行事に参加し、新しい出会いを通して成長していく様子が描かれています。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】高校生が主役となっており、読んでいるうちに自分も物語に参加しているように感じられるところ。

（赤川瑞穂）

◆『夜のピクニック』は、『六番目の小夜子』『球形の季節』と合わせて恩田陸の高校三部作です。高校生活最後を飾るイベント「歩行祭」、それは全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通すという伝統行事です。学校生活の思い出や卒業後の夢など話し、親友たちと歩きながら甲田貴子は三年間、誰にも言えなかった秘密を清算する誓いを胸に抱いて、歩行祭にのぞみます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】不安や恐ろしさを振り払いながら、勇気を振り絞って前へと一步踏み出そうとする貴子の姿から「自分も何かがんばってみよう！」という気持ちになれます。

（中村真理奈）

◆甲田貴子は「歩行祭」に参加し、今まで話したことがない人々と話し、謎が解けます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】青春を味わえ、人間関係を学ぶことができます。

（武田理沙）

川口俊和

『コーヒーが冷めないうちに』（サンマーク出版）

913.6/Kawa

◆何気ない街にある、とある喫茶店の座席にはとても不思議な都市伝説があった。それはその席に座ると自分が戻りたい過去に戻れるというものなのだが、実行するには複雑なルールが。そんな中、過去に戻ることを選んだ四つの物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】4人それぞれが違う過去を望み、そこから生まれる奇跡のような物語が育まれていく内容がとてもおもしろい。四人の接点であったり繋がりにも注目してください！

（成尾明日花）

川村元気

『世界から猫が消えたなら』（小学館）

913.6/カ

◆余命宣告された僕に悪魔が現れ、命と引き換えに世界からものが消えていく不思議な物語。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】生きる上で大切なことを教えてくれる。

（長崎心音）

**カンザキイオリ**

**『あの夏が飽和する。』 (河出書房新社)**

913.6/カ

◆あの夏のはじめ、流花は誤っていじめっ子を死なせてしまう。自暴自棄になった流花は千尋とともに逃避行の旅に出たが、警官に追いつめられたうえ、流花は千尋を残して自ら命を絶ってしまった。それから13年、流花のことが忘れられず、ただ無気力な毎日を送っていた千尋の前に、流花に生き写しの高校生・瑠花が現れる。千尋は瑠花に強烈に惹かれていくが、彼女には人知れぬ闇が隠されていた。さらに、瑠花の同級生でバイト仲間の武命は、壮絶な虐待のはてに悲劇的な計画を決意。2人はそれぞれ破滅への道へ転がり落ちていた。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】バラバラな登場人物が、話が続くにつれてつながっていくところ。

(加藤成葉)

**菅野仁**

**『友だち幻想』 (筑摩書房)**

081.9/チ/079

◆友達関係に対する期待や幻想が原因でトラブルや誤解が生じ、主人公や登場人物達が成長していく物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】人間関係を題材にしているため、人々が他者との関係に対して持つ期待や現実のギャップを描写し、友情とは何かを考えさせられる。

(山根香奈)

**貴志祐介**

**『青の炎』 (KADOKAWA)**

913.6/キ/ (c)

◆17歳の楠森秀一は、母が10年前に別れた男・曾根が、母だけでなく秀一の妹にまで手を出そうとすることが許せなかった。秀一は警察も法律も当てにならないことを知り、曾根を自ら殺すことを決める。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】高校生が主人公で共感しやすいです。しかし最後はかなり鬱展開なため、感情移入しすぎないことをお勧めします。

(龍本佳奈)

**岸見一郎**

**『嫌われる勇気』 (ダイヤモンド社)**

146.1/K

◆フロイト、ユングと並び「心理学の三大巨頭」と称される、アルフレッド・アドラーの思想(アドラー心理学)を、「青年と哲人の対話篇」という物語形式を用いてまとめた一冊です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】対話形式になっているので、文字ばかりの本があまり好きではない人も読みやすいと思います。こういう考え方もあるのだと思わせてくれる本です。

(田中心優)

◆心理学者 アルフレッド・アドラーが提唱する「アドラー心理学」をもとに、私たちが普段抱える人間関係の悩みをシンプルに解決し、本の題名である“嫌われる勇気”を持ちながら自分らしく生きるための方法を紹介した本。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】この本は13歳向けに書かれた本ですが、高校に入ってから人間関係に悩むことが前より減ってきてても、人生における決断をするときなどに、嫌われる勇気を持つということは大切だと思います。

(富田紗也子)

**桐野夏生**  
**『グロテスク』 (文藝春秋)**

913.6/キ/1~2

◆名門学園高校に存在する貧富・家柄・頭脳・美貌での戦慄の序列差別・悪意を映し出す。上巻では学園内の女同士の歪み合いやいじめ、下巻ではそれぞれが大人になった後が描かれる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 幸せとは一体なんなのか考えさせられる作品。人間の底にあるドロドロとしたものが浮き彫りになる。

(猪師朝実)

**呉勝浩**  
**『爆弾』 (講談社)**

913.6/Go

◆酔っ払って酒屋の自動販売機を蹴りつけて、止めにきた店員を殴って野方警察署に連行されたさえない中年男。スズキタゴサクと名乗ったその男は、刑事の取り調べの最中に「十時に秋葉原で爆発がある」と予言する。その言葉通り、秋葉原にあるビルの空き部屋で爆発が起きる。さらにスズキは「ここから三度、次は一時間後に爆発する」と告げる。スズキは爆弾の在処を聞き出そうとする刑事に対し、さまざまな持論を展開し、彼らを翻弄しようとする。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 話が二転三転し、最後の最後まで犯人の動機が分からず、とても面白い作品になっています。

(柳楽香怜)

**コムドットやまと**  
**『聖域』 (KADOKAWA)**

所蔵なし

◆日本中の若者を驚かせる彼らを率いるリーダー・やまとは何を考え、行動し、この場所を進んでいるのか。置く場所も、咲き方も自分で選ぶ。自分の人生を、誰にも邪魔させない。夢を掴む突き抜けた考え方、燃える生き方をすべて、熱を帯びた彼自身の言葉で書き下ろしています。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 人気YouTuberのリーダーであるやまとが、若者である私達に向けて夢に対しての考え方を教えてくれます。自分の経験をもとに、圧倒的に自己肯定感が上がるようなアドバイスが書かれていて、みんなに読んでもらいたい。親にも、子供が夢を追いかけやすくなるように読んでもらいたいです。

(和田美海)

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 高校生は、これからの人生でチャレンジしていくことが多くなっていきます。そこで振り返ると大きく3つの時期を通過してきました。1年生は自分探しを見つける時期。2年生は人生について深く考える時期。3年生は頂点へ一直線に走り出す時期。という時期があります。人は運だけで生きては行けません。時に挫折し、時に喜び、そして努力するからこそ目標は見えてきます。私も高1の時に目標が見つかりました。この本は目標を見つけると共に、チャレンジ精神と夢が見つけれられる、そんな1冊です。

(樽谷南那実)

近藤史恵

『岩窟姫』（徳間書店）

913.6/コ

◆主人公の蓮美は、テレビや雑誌で売れている人気モデルだった。テレビで小馬鹿にされるような嫌な仕事もあったが、自分を美しく撮影してもらったり、モデルとしての活動は意欲的にこなし、日々満足して生活していた。しかし、突然としてその平穏な日々が蓮美から奪われてしまう。原因は、同じ事務所で売れ筋トップであり、友達でもあった沙霧の自殺。その自殺の原因が、蓮美によるいじめだとされたのだ。テレビは沙霧の自殺、蓮美への誹謗中傷で溢れかえり、気がめいってしまう蓮美だが、あるサイトを見つけ、沙霧の死の真相へ迫る。しかし、沙霧の死に迫るにつれて、それを阻もうとする裏の人間からの危険が蓮美達に襲いかかる。沙霧の死の真相は、蓮美の運命はいかに。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 現代社会を生きる私たちには、Youtuberやモデル、アイドルという職業は一見華やかで、楽に稼げる、そんな誰もが憧れるような輝かしいものに見えるかもしれない。しかし、表面上が華やかな世界も、裏を返せば言葉にするのも難しいほどのドロドロした事情に溢れている。人前に出て、何一つ苦痛を表情に出さずに働いている人の凄さを改めて実感することができる素晴らしい作品だといえる。

（堀田菜々美）

近藤史恵

『サクリフェイス』（新潮社）

913.6/コ

◆ロードレースチームのエースの風除けとして働く新米レーサーが主人公。レースにおいて、チームの成績を伸ばすために自分を「犠牲」にして走る主人公を取り巻く癖ありのチームメイトや、過去回想がキーポイントになる青春小説とサスペンスが融合された小説です。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 主人公の自己肯定感の低さが、ちょうど良い。

（竹田裕希）

坂木司

『和菓子のアン』（光文社）

913.6/サ

◆デパ地下の和菓子店でアルバイトを始めたアンちゃんが、和菓子の魅力に目覚める。そのお店で起こる和菓子にまつわる謎や歴史を解き明かす、ほんわかしたミステリー本。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 ただ美味しいだけじゃない和菓子の魅力に気づけるところ。

（今村心温）

佐藤多佳子

『一瞬の風になれ』（講談社）

913.6/サ/1~3

◆サッカー一家に育った少年が、高校入学を機に陸上部に転向。風変わりだが、抜群の才能を持つ親友や、走ることにひたすら熱い友人らとともに駆け抜ける、まさに風のような青春の小説。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 個人競技のイメージが強い陸上の中でも、リレーチームの絆や部活全体でのチームワークなどの団体要素が重要であるということを強く感じることができ、実際にレースを走る選手のパフォーマンスに影響を与えるということが感じられるところ。

（石田桃菜）

潮谷 駿

『スイッチ～悪意の実験～』（講談社）

913.6/シ

◆「純粹な悪」を研究テーマにした心理コンサルタントが提案した風変わりなアルバイト。それは、自分が普段使うスマホに、自分達とはなんの関わりもなく幸せに暮らしている家族を、一瞬で破滅させるスイッチのアプリがインストールされ、スイッチを押しても押さなくても1ヵ月後に100万円が支払われるというもの。押すメリットはない。「誰も押すわけがない」誰もがそう思っていたのだが…。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】人間の深層心理、自分の言葉や行動の中にある責任感などを深く考えさせられる作品で、人間の心の影のある部分を見た気になれる満足感があります。

(砂子愛裕美)

汐見 夏衛

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』（スターツ出版） 913.6/シ

◆戦時中の日本にタイムスリップした女子中学生と、特攻隊員との切ない恋を描いたラブストーリー。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】主人公の年齢が自分たちと近いので話に入り込みやすく、本を通して実際に日本で起きていたことや当時の18歳くらいの人たちの生き方、日本全体の戦争に対する考え方を知ることができるのでおすすめです。また、ラブストーリーなのでリアルな戦争物の本や映画が怖くてで見られないという人も手に取りやすいと思います。

(宿南和日)

◆親にも学校にも不満を抱える中学生の百合は、母親とケンカになり、家を飛び出して近所の防空壕跡で一夜を過ごす。翌朝、百合が目を覚ますと、そこは戦時中の日本だった。通りがかりの男性の彰に助けられ、軍の指定食堂に連れて行かれた百合は、そこで女将のツルや勤労学生の千代、彰と同じ隊の石丸、板倉、寺岡、加藤らと出会う。彰の誠実さや優しさにひかれていく百合だったが、彼は特攻隊員で、間もなく命懸けで出撃する運命にあった。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】高校生の話なので、感情移入がしやすく、また戦争について知ることができる。戦時中の様子が詳しく書かれているので、改めて戦時中の大変さと戦争を起こしてはいけないと思った。

(藤原咲花)

汐見 夏衛

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』（スターツ出版）

913.6/シ

◆高校2年の丹羽茜は、過去の辛い経験のため、誰からも好かれる優等生を演じている。しかし、深川青磁にだけは、2年で初めて同じクラスになった時に、いきなり「お前のこと、大嫌い」と言われてしまい、茜はショックを受けるがなんとか受け流す。そんな時、たまたま風邪を引いた茜はマスクを着け、治った後も表情を隠すためにマスクが外せなくなる。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】優等生を演じてしまう主人公が、青磁という男の子のおかげで、本音を言えて正直に生きられるようになります。誰でも優等生を演じたりしがちかもしれませんが、人生を楽しく生きるためには自分に正直に生きることが1番大切なのだと気付かされました。この本を読んで、少しでも多くの人が自分に正直に生きて、人生がより楽しくなることを願っています。実はこの本は映画化もされています。本と映画では内容が異なっているのでどちらも挑戦してみてください。

(山本実優)

汐見夏衛

『海に願いを風に祈りをそして君に誓いを』(スターツ出版) 913.6/シ

◆舞台は小さな海辺の町で、優等生でしっかり者だけど照れ屋で天の邪鬼な風沙と、おバカで底抜けに明るく風沙のことが大好きな優海は、幼馴染で恋人同士。二人は過去のある出来事から、特別な深い絆で結ばれているが、ある夏の朝一つの決意を胸に目覚めた風沙は、その日を境に優海に対する態度を一変させた、そこには悲しい秘密が隠されていた。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】伏線回収がすごく、秘密を知ってから色々考えさせられることがあったのでおすすめです。

(半田雅)

重松清

『ナイフ』(新潮社)

913.6/シ/(c)

◆短編集。どのお話の主人公も、なんらかの形でいじめに関わっている。それがいじめの被害者だったり、被害者の親だったり状況は様々だが、皆それぞれの希望に向かって明日へ歩んでいく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】どのいじめもリアルなので、読んでいて辛くなるかもしれません。それでも今、人間関係に悩んでいる人や、少し色々なことに疲れを感じている人は、是非読んでみてください。立ち向かうことが全てじゃない、逃げたっていい。そんなことを感じるができるかもしれません。

(梅村真帆)

栗井脩介

『望み』(KADOKAWA)

913.6/シ

◆夏休みが明けた9月のある週末、息子の友人が複数人に殺害されたニュースを見て、二人は胸騒ぎを覚える。行方不明は三人。そのうち犯人だと見られる逃走中の少年は二人、殺されたのは一人。息子の無実を望む父と、犯人であっても生きていて欲しいと望む母。揺れ動く父と母の思いが描かれている。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】被害者であっても無実でいてほしいと思う父と、加害者でもいいから生きていて欲しいと願う母のそれぞれの息子に対する想いに心を動かされます。

(加納瑞葵)

島田ゆか

『バムとケロのおかいもの』(文溪堂)

P91/S

◆バムとケロがお買い物に行く話。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】高校生は難しい本ばかり読んでいると思うから、たまにはバムとケロ見て癒されてください。

(川崎舞琳)

下村敦史

『同姓同名』(幻冬舎)

913.6/Shimo

◆登場人物全員、同姓同名のミステリー。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】混乱する。SNSでの誹謗中傷問題の提起とも見られる作品で、私たちのSNSの使い方を改めて考えさせられたところ。

(椎名あゆみ)

昭文社出版編集部

『図解でスツと頭に入る江戸時代』(昭文社)

213.61/0

◆将軍の暮らし、江戸の統治システムといった、いわゆる「お上」の仕組みから、武士や農民・商人の暮らし、職業、娯楽などの「庶民」の仕組みまでを図解で解説。「仕組み」という面から江戸時代を捉えた実用的江戸案内。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】江戸時代のことを6つのテーマに分けて、細かくわかりやすく説明してくれている本です。教科書で習うことではなく、私たちの身近なテーマで書かれています。当時の結婚や、人気スポット、将軍の生活などを細かく教えてくれています。細かい文章だけだと読みにくいという人も多いと思いますが、この本はほとんどが図や写真で説明してくれているのでとても読みやすいです。歴史に興味がある方はぜひ手に取ってみてください。

(鳴見梨香那)

白井智之

『エレファントヘッド』(KADOKAWA)

913.6/Shira

◆精神科医の象山が築いてきた幸せな家族が小さな亀裂から崩壊してしまい、謎の薬を手に入れたことで人知を超えた殺人事件に巻き込まれていくミステリー小説。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】主人公が倫理観がなく内容を理解するのが難しいですが、展開が気になって最後まで読んでしまう本です。

(土谷メイ)

新海誠

『すずめの戸締まり』(KADOKAWA)

913.6/シ

◆東北で生まれ、幼いころに東日本大震災を経験した女子高校生・すずめがその後、九州に移り住み、1人の青年との出会いをきっかけに、地震などの「災い」のもととなる扉を閉めていくという冒険物語です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】出来事がコロコロ変わるので、読んでいて飽きないです。

(二木友璃奈)

菅原孝標女

『更級日記』(角川学芸出版)

915.36/ス

◆平安時代のある貴族の娘が、自身の一生を書き記した日記。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】特別になることを夢見る普通の少女が、憧れたような人生を送れないことに悲しんだり、嬉しかったことをいつまでも大切にしていたりと、1000年ほど前の人ですが、かなり共感することができる場面があると思います。受験勉強にもなりますヨ。

(森紗弥)

杉井光

『世界でいちばん透きとおった物語』（新潮社）

913.6/ス

◆大物ミステリー作家の息子である主人公は、その父と会ったことがない。父の編集者と、彼の「書いたはずなのに見つからない遺作」を探していくうちに、父の人柄、僕に対する思いが判明していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】文章が所々読みづらいところもありますが、最後まで読めば全てに理由があったことがわかります。この本はぜひ紙の本で読んでください。

(小山璃乃)

須磨久善

『医者になりたい君へ～心臓外科医が伝える命の仕事～』（河出書房新社）494.643/S

◆著者の心臓外科医・須磨久善先生が自らの考えをふまえた、医療の夢と現実、そして可能性について綴っているエッセイです。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】理系の、特に医療系を考えている人や迷っている人に呼んで欲しい一冊です。医者という職業のあらゆることについて考えることができます。

(富川結葉)

住野よる

『君の臍臓をたべたい』（双葉社）

913.6/ス

◆人に興味がなく関わらなかった主人公（男）が余命宣告されたクラスメイトの女の子と会い、その子と関わっていくなかで心を開いていく話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】余命宣告をされてもされなくても、誰しものが死ぬから、悔いのないよう過ごすことを気付かされる場所。

(箕内麗音)

住野よる

『また、同じ夢を見ていた』（双葉社）

913.6/Sumi

◆友達のいない少女、リストカットを繰り返す女子高生、アバズレと罵られる女性、一人静かに余生をおくる老女、彼女たちそれぞれの“幸せ”は、どこにあるのか。「やり直したい」ことがあり、「今がうまくいかない」人たちの物語です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】登場人物がみんな個性的で、主人公と一緒に泣いたり笑ったり考えたりしながら物語を読み進めることができる作品です。住野よるさんは『君の臍臓をたべたい』の著者でもあり、この作品が好きだった方はぜひ読んでほしいです。

(米本結南)

住野よる

『か「」く「」し「」ご「」と「』（新潮社）

913.6/Sumi

◆高校生の男女5人、京、ミッキー、パラ、ヅカ、エルにはそれぞれ他人の感情が記号等で見えるという秘密の能力がある。物語は章ごとに視点が変わり、それぞれが友情や恋愛や進路に悩みながら高校生活を送る。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】高校生活を過ごしていく中で、成長していく登場人物に自分を照らし合わせてみると面白いと思います。

(藤田真彩)

住野よる

『麦本三歩の好きなもの』（幻冬舎）

913.6/Sumi

◆図書館勤務の20代女子、麦本三歩の何気なく愛おしい日々を描いた日常小説。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】短いストーリーがいっぱい読みやすく、自然と笑顔になる本です。

（山本椰菜子）

瀬尾まいこ

『卵の緒』（新潮社）

913.6/セ

◆主人公の僕は捨て子だと思っている。その証拠に母さんは僕にへその緒を見せてくれない。代わりに卵の殻を見せて、僕を卵で産んだなんて言う。それでも、母さんは誰よりも僕を愛してくれる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】「親子」の強く確かな絆を描く作品。心が温まる。

（梶木遥奈）

瀬尾まいこ

『あと少し、もう少し』（新潮社）

913.6/セ

◆頼りない顧問と、寄せ集めのメンバーが試合に向けて練習していきます。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】試合への挑み方がメンバーそれぞれで、いろいろな視点から楽しめます。

（内山志歩）

瀬尾まいこ

『そして、バトンは渡された』（文藝春秋）

913.6/セ

◆幼い頃に母親を亡くし、父とも海外赴任を機に別れ、継母を選んだ優子。その後も大人の都合に振り回され、今は、年の差わずか20歳の父と暮らす。血の繋がらない親の間をリレーされながらも、出逢う家族皆に愛情をいっぱい注がれてきた彼女自身が結婚をする時に知る真実とは。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】本を読み終えるととても心が温かくなる作品です！読みやすく、また、感動できるので是非読んでみてください。

（小谷知永）

◆血の繋がらない親のもとを転々としてきた高校生主人公は、義理の父親・森宮さんとの二人暮らしに落ち着いていた。優子のもとに一通の手紙が届く。それをきっかけに、彼らが隠していた嘘や秘密が、それぞれの人生を交差させるように導いていく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】主人公の境遇は誰しも同情めいた感情を抱いてしまうような境遇に思えますが、家庭環境が複雑だからといって不幸だとは限らず、複雑な家庭環境に置かれながらも前を向くことのできる主人公の明るさに家族の在り方を気づかされる作品。

（坂口梨香）

◆血の繋がらない親に育てられた森宮優子は、料理上手な義理の父とふたりで暮らし、将来や友人関係に悩んでいた。その一方で、夫を何度も変えて来た継母の梨花は、愛娘を置いて姿を消した。ある日、優子に届いた一通の手紙をきっかけに、ふたりの物語が交差していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】相手を思う大切さについて深く書かれています。

（岡那々美）

高田郁

『みをつくし料理帖』（角川春樹事務所）

913.6/タ

◆大阪に生まれた天涯孤独な少女・漣が、料理の腕一本を頼りに江戸に行き、艱難辛苦を乗り越えながら、やがて一流の女料理人になるまでの波乱万丈の物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 どんなに厳しい状況になっても、前を向いて乗り越えていく主人公の力強い姿に感動しました。悩みながらも周りの人たちの協力とともに乗り越えていく姿に心を温められ、励まされます。

(上繁藍里)

太宰治

『斜陽』（新潮社）

913.6/ダ/b

◆破滅への衝動を持ちながらも“恋と革命のため”生きようとするかず子、麻薬中毒で破滅してゆく直治、最後の貴婦人である母、戦後に生きる己自身を戯画化した流行作家上原。没落貴族の家庭を舞台に、真の革命のためにはもっと美しい滅亡が必要なのだという悲壮な心情を、四人四様の滅びの姿のうちに描く。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 中二病の人にオススメ！

(中村優那)

◆没落貴族の話です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 うまく言語化できませんが、すごく感銘を受けた一冊です。

(井尻珠子)

田中孝幸

『13歳からの地政学』（東洋経済新報社）

312.9/T

◆中学生の兄妹が、アンティーク店の店長から地球儀を貰うために、店主から地政学を学ぶ。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 世界がわかります。

(石賀七惺)

知念実希人

『ムゲンのi』（双葉社）

913.6/チ/1・2

◆眠りから醒めない謎の病気〈特発性嗜眠症候群〉通称イレスという難病の患者を三人も同時に担当することになった神経内科医の識名愛衣。治療法に悩んでいたのだが、沖縄の霊能力者・ユタである祖母の助言により、魂の救済〈マブイグミ〉をすれば患者を目覚めさせられると知る。愛衣は祖母から受け継いだユタの力を使って患者の〈夢幻の世界〉に飛び込み、魂の分身〈うさぎ猫のククル〉と一緒にマブイグミに挑む。本屋大賞にノミネートされた超大作ミステリー。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 読み進めるうちに、どれが現実かわからないファンタジーな世界に引き込まれます。読み始めたらとまらなくなくなる面白い本です！

(瀬川真里奈)

知念実希人

『真夜中のマリオネット』（集英社）

913.6/Chine

◆婚約者を殺された救急医の秋穂は、深い悲しみを抱えながらもなんとか職場に復帰をした。そこに運ばれてきたのは、交通事故で重傷を負った美少年・涼介。無事、命を救って手術室を出た秋穂に刑事が告げた。「彼は『真夜中の解体魔』だ」。復讐しようとする秋穂に、涼介は涙ながらに無実を訴え、証拠を見せた。秋穂は、ためらいながらも涼介と真犯人を探すことになるが……。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】美少年の描写が凄い上手で、物語の中に引き摺り込まれます。猟奇殺人事件の背景にある巧妙な心理戦で、緊迫感と臨場感で、鳥肌が止まりません。

(森文香)

辻村深月

『ツナグ』（新潮社）

913.6/ツ

◆一生のうちに一回だけ、死者と再会させてくれるという使者の話。それぞれの人が会いたいと願う死者と再会することで様々な感情が生まれる。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】現実にはないシチュエーションを読むことで、改めて今周りにいる人を大切にしようと思えることができます。映画化もしているので、本より細かい部分を確認できます。

(廣瀬佳歩)

◆一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者（ツナグ）」。突然死したアイドルが心の支えだったOL、年老いた母に癌告知出来なかった頑固な息子、親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生、失踪した婚約者を待ち続ける会社員…。各々がツナグを通して伝えたい言葉とは。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】もう死んでしまった会えない人に会いたいのか、会いたくないのか、考えさせられる作品です。

(大山田藍風)

辻村深月

『傲慢と善良』（朝日新聞出版）

913.6/ツ

◆30代になった西澤架は、マッチングアプリで坂庭真実と出会い付き合い始める。しかし、親の敷いたレールの上を歩み善良に生きてきた真美は、架と婚約直後に失踪してしまう。消えた真美の行方を捜す中で、知りたくなかった彼女の過去と嘘が徐々に明らかになる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】恋愛・婚活を通して何か・誰かを「選ぶ」時に人々に現れる、傲慢さと善良さ。私たち自身の価値観や判断を問い直すきっかけを与える作品です。

(井上桜子)

辻村深月

『闇祓』（KADOKAWA）

913.6/Tsuji

◆精神・心が闇の状態にあることから生ずる、自分の事情や思いなどを一方的に相手に押しつけ、不快にさせる言動・行為【闇ハラ＝闇ハラメント】を追う物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】圧倒的な話のどんでん返しと【闇ハラ】の怖さが分かるところ。

(西田佳那子)

辻村深月

『この夏の星を見る』(KADOKAWA)

913. 6/Tsuji

◆コロナ禍で次々と活動が制限されていく天文部の生徒を中心に繰り広げられていく物語。コロナに翻弄される生徒ならではの葛藤や、コロナだからこそ体験できる出会いが描かれていく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】私が中高生時代にコロナ禍を経験したからこそ、主人公やその同級生たちが抱える悩みが共感できるものばかりでした。本を読みながら、この本が少し自分の味方になってくれたような気持ちになりました。

(田頭真彩)

友井羊

『スープ屋しずくの謎解き朝ごはん』(宝島社)

913. 6/ト

◆美味しいスープ屋さんの店主が謎を解く。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】それと並行して、主人公と店主の恋物語もあり、スープが美味しそう。

(吉田知穂)

外山滋比古

『思考の整理学』(筑摩書房)

141. 5/ト

◆自分の頭で考え、アイデアを軽やかに離陸させ、思考をのびのびと飛行させる方法を学べます。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】学びとは何かを考えるきっかけになります。

(吉田唯乃)

中村文則

『遮光』(新潮社)

913. 6/ナ

◆恋人の美紀の事故死を周囲に隠しながら、彼女は今でも生きていると、その幸福を語り続ける男。彼の手元には、黒いビニールに包まれた謎の瓶があった——。それは純愛か、狂気か。喪失感と行き場のない怒りに覆われた青春を、悲しみに抵抗する「虚言癖」の青年のうちに描き、圧倒的な衝撃と賞賛を集めた野間文芸新人賞受賞作。若き芥川賞・大江健三郎賞受賞作家の初期決定的代表作。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】今まで感じたことのない新しい経験を味わえます。

(山内万葉)

凧良ゆう

『わたしの美しい庭』(ポプラ社)

913. 6/ナ

◆小学生の百音は、血の繋がっていない統理と二人暮らしをしており、朝になると同じマンションに住む路有と三人で食卓を囲む。そのマンションの屋上には庭園の中に統理が神主を務める小さな神社があり、近所では「縁切り神社」「縁切りさん」などと呼ばれている。その神社をとりまく様々な問題を抱えた人々の物語。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】登場人物みんなが何かしらの問題を抱えていて、乗り越えた何かを持っていて、それ故とにかくあたたかくて穏やかな物語です。登場人物たちの世界が本当に美しく、その先をずっと追いたくなります。

(豊浦京佳)

凧良ゆう

『汝、星のごとく』（講談社）

913. 6/Nagi

◆風光明媚な瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた權。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】恋愛小説でありながら今まで読んだことのないようなストーリーで、読み終わった後の喪失感と満足感が素晴らしいです。物語全体としては暗めで、読んでいて苦しくなる時もありますが、希望を見つけようと頑張る主人公に胸が打たれます。心理描写も丁寧で読みやすいので感情移入して、のめり込んで読んでしまいます。

(立石真央)

◆島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた權。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】文章を最初から最後まできちんと読むと面白いトリックが隠されていることに気づける。

(丸尾美那)

◆家庭環境があまり良くない少女と少年が成長していく話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】凧良ゆうさんの言葉のセンスがすごく良くて読みやすい。

(葉百華)

梨木香歩

『西の魔女が死んだ』（新潮社）

913. 6/ナ

◆学校になじめない少女・まいは、少しの間おばあちゃん（西の魔女）の家で共同生活をす。そこでまいは、魔女になるための修行をすることになる。それは、“何でも自分で決めること”だった。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】思春期で一番複雑な時期。みんなと同じじゃなくても良いんだよ、というメッセージも込められている気がする。

(藤田侑子)

夏川草介

『神様のカルテ』（小学館）

913.6/ナ/1

◆医師不足で僻地医療問題を抱えるとある病院の内科医の主人公が、地方医療の厳しい現実と向き合いながら激務をこなし、人の生と死に触れながら成長する物語です。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】感動する場面もあり、読んでいると心が温まるような感覚になります。

（風間美音）

◆主人公・栗原一止は、信州松本にある本庄病院に勤務する内科医である。彼が勤務している病院は、地域医療の一端を担うそれなりに規模の大きい病院。24時間365日などという看板を出しているせいで、3日寝ないことも日常茶飯事。自分が専門でない範囲の診療まで行うのも普通。そんな病院に勤める一止には最近、大学病院の医局から熱心な誘いがある。医局行きを勧める腐れ縁の友人・砂山次郎。自分も先端医療に興味がないわけではない。医局に行くか行かないかで一止の心は大きく揺れる。そんな中、兼ねてから入院していた安曇さんという癌患者がいた。優しいおばあちゃんという様相で、看護師たちには人気者だが、彼女は「手遅れ」の患者だった。「手遅れ」の患者を拒否する大学病院。「手遅れ」であったとしても患者と向き合う地方病院。彼女の思いがけない贈り物により、一止は答えを出す。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】末期の患者さんと向き合う異色の医療小説です。主人公が治すことがすでにむずかしい患者さんや同業者と生活を送っていく姿。

（山神七穂）

夏目漱石

『こころ』（新潮社）

913.6/ナ

◆少年は鎌倉の海岸で出会った男性を「先生」と呼び、慕うようになる。父親の見舞いで故郷に帰っていた少年は先生からの手紙を受け取り、急いで東京行きの電車に乗り込む。受け取った手紙には、先生の悲しい過去が綴られていた。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】教科書にも一部が載っていて紹介するまでもなく有名な小説ですが、教科書に載せきれていない全文を読んで欲しいです。心情の描写があまりにも上手く、読み終わった後こころに重いものが残る小説ですが、読んでよかったと思えるので、ぜひ読んでみてください。

（坂本理彩）

七月隆文

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』（宝島社）

913.6/ナ

◆大学へ向かう京阪電車に乗る“僕”・南山高寿は、吊革に掴まり車窓を眺めていた。ふと視線を別の方向へ向けたとき、高寿はその視線の先にいた女性に一目惚れをしてしまう。電車を降りた女性の後を追いつき、意を決して「一目惚れをしました」と声をかけた。携帯電話を持っていなかったその女性・福寿愛美は、はにかみながらも高寿の話聞く。愛美は電車を乗り違えたため、反対のホームで電車を待つ間、高寿と話をした。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】愛美が秘密を打ち明けるところ。

（戸澤美桜）

七月隆文

『君にさよならを言わない』（宝島社）

913. 6/ナ

◆初恋の幼なじみ、画家を目指していた元クラスメイト、通り魔殺人の犠牲者、大会前に病死してしまった陸上部の少女。未練を残した少女たちと出会った明は、視ることと話すこと以外、特別な力を持たなかったが、彼女たちの事情を知り、その魂を救おうと奔走する。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】未練を残したまま亡くなった少女たちを成仏させてあげるために行動する明の姿。

(戸澤美桜)

並木陽

『斜陽の国のルスダン』（講談社）

913. 6/Nami

◆偉大な女王タマラを母に持つ天真爛漫な王女ルスダンは、兄王ギオルギの死によってヨーロッパ最果ての王国の運命を双肩に担うことになり、東方から次々と襲い来るモンゴルとホラズムの脅威に立ち向かう。スルタン・ジャラルディーンとの果て知れぬ戦い。廷臣たちの思惑。そしてルーム・セルジュークから人質としてやってきた王子との絶ちがたい絆。激動の時代を生きた女王と王配を描いた一大歴史ロマンス！

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】女王と王子の愛する国、愛する人を守るために命をかけて生き抜く姿に胸を打たれます！

(深松想子)

二宮敦人

『！』（アルファポリス）

所蔵なし

◆3つの別々のストーリーが入っています。1人の学生が拾った携帯電話には友人の殺される直前の映像が残されており、それを発見した数人で犯人を探しにいく話—クラスメイト。浪人生が一人暮らしをしている部屋の壁にふとしたひょうしで穴が空いてしまった。その穴に入るとなんと隣の殺人鬼の部屋に繋がっていた。浪人生が徐々に殺人鬼とコミュニケーションをとっていく話—穴。女子高生が目覚めると真っ白な部屋に閉じ込められていて持っていたのは携帯電話のみ。少しずつ壁が動いていて、空間が徐々に狭くなっていく話—部屋。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】少しホラーなのですが、文字なのに読むだけでその場の状況を鮮明に思い浮かべることが出来て、読書が苦手な人でも読みやすいと思います。最後まで読まない面白くないと思えないかもしれませんが、頑張って読み切ったら、今までに感じたことのない面白さを感じることが出来るでしょう。

(茂下果歩)

灰谷健次郎

『兎の眼』（KADOKAWA）

913. 6/ハ

◆ゴミ処理場の近くに住む小学生と学校の先生のお話で、小学生が様々な問題を抱えつつも新任の先生と仲良くなっていく話。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】小学生の時に読んだ時は少し重暗い内容だと思っていましたが、後々もう一度読むと重いのに割と読みやすい本が良い。

(稲富苺香)

島山健二

『本所おけら長屋』(PHP研究所)

913.6/ハ

◆米屋奉公人の万造、酒屋奉公人の松吉たちが中心に、彼らの住むおけら長屋の住人や時には街の人や出会ったばかりの人を巻き込むお話。とりあえず全てが、お祭り騒ぎの江戸時代ならではの庶民が入り乱れまくる笑いが溢れるお話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】主人公たちは貧乏なくせにおせっかいでなんでも首をツッコみ、その結果意外すぎる結末へといくことも！時代小説なのに一つもくだいことがなく、とても読みやすいです！このシリーズは20巻まで出ていますが最近出た新シリーズ『新本所おけら長屋』もぜひ。

(細矢ともみ)

原田マハ

『一分間だけ』(宝島社)

913.6/ハ

◆働く女性と愛犬の物語である。ある日ゴールデンリトリーバーのリラを飼うことになったファッション雑誌編集者の藍は、恋人と一緒にリラを育てはじめたものの、仕事が生き甲斐の藍は、日々の忙しさに翻弄され、何を愛し何に愛されているかを次第に見失ってしまう。恋人が去り、残されたリラとの生活に苦痛を感じ始めた頃、リラが癌に侵されてしまう。愛犬との闘病生活のなかで藍は「本当に大切なもの」に気づきはじめる。「大切なものは、失ってから初めて気付く」と理解できてもなかなか行動には結び付かない。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】犬を飼っている人や動物好きな人におすすめ。どんな命でも、大切に愛情を込めて育てることは、かけがえのないことである。自由がなくなつて諦めることが出てくる中で、今まで見逃していたことに気づき、命の大切さを改めて認識することができる。

(井上心結)

原田マハ

『たゆたえども沈まず』(幻冬舎)

913.6/ハ

◆19世紀後半のパリで、ゴッホの弟テオと2人の日本人がゴッホの一生を支えた史実をもとにしたアートフィクション。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】誰もが知っているであろうゴッホの絵「星月夜」が描かれるまでの物語。どのような想いでこの絵を描いたのか詳しく書かれていて没入感がすごい作品。

(佐竹菜々子)

東野圭吾

『放課後』(講談社)

913.6/ヒ

◆校内の更衣室で生徒指導の教師が青酸中毒で死んでいた。先生を二人だけの旅行に誘う問題児、頭脳明晰の美少女・剣道部の主将、先生をナンパするアーチェリー部の主将。犯人候補は続々登場する。そして、運動会の仮装行列で第2の殺人が……。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】物語の導入が巧く、最初からひきこまれる本です。容疑者が二転三転するかなり凝ったストーリー展開で、描写も分かりやすいです。密室トリックを一回解いたと思わせておいて、実はそのトリックは罠で、真のトリックは別にあるという展開が魅力的なので、推理して読んでみてください！

(阿部瑞樹)

**東野圭吾**  
**『秘密』 (文藝春秋)**

913.6/ヒ

◆バスの転落事故で娘と妻の二人を同時に亡くしそうになった男の物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】一般的な家族の生活の中で起きる事故で、小説の中にひきこまれるような小説です。

(住徳優香)

**東野圭吾**  
**『白夜行』 (集英社)**

913.6/ヒ

◆時間を通じて、二人の主人公を描く物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】伏線回収などがないところが面白い。

(野田桃寧)

**東野圭吾**  
**『時生』 (講談社)**

913.6/ヒ

◆夫婦で息子の最期を見送るとき、拓実は20年以上前にトキオに出会ったことを妻に語り出すところから物語がはじまります。息子と自分の人生をめぐって、過去や現在を行き来するタイムリープものです。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】時生の親父である拓美の母がなぜ、拓美を産んで人に預けたのか、真相にめちゃくちゃ泣ける！！！！最後の一言にこの本の全てが詰まってる感じが、鳥肌ものでした！

(小堀和香)

◆不治の病を患っている息子を持つ主人公の男性が、今まで打ち明けられなかったことを妻に明かしていく話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】息子の最期が近づいているときに、20年以上前に出会った少年の思い出話を妻にしているところです。

(樽谷怜花)

東野圭吾

『流星の絆』（講談社）

913.6/ヒ

◆小さい頃に夜中に家を抜け出し流れ星を見に行った3兄妹は、帰宅すると両親が何者かに殺されていた。14年後犯人を突き止める機会が訪れ、復讐計画を立てる。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 犯人は全くの予想外の人物で、一度読み始めたら最後まで読んでしまうようなとても入り込める作品だと思います。この本は直接的な表現ではなく、心の動きを感じさせるテクニックがあって、とても感動しました。

（橋本夏帆）

◆幼い頃に両親を殺された3人の兄妹が、犯人を見つけ復讐を果たそうとする物語です。兄妹は詐欺を働きながら犯人を追い詰める一方で、時間に隠された意外な真実に直面します。復讐心と絆をテーマに、過去と向き合いながら新たな道を模索していく物語です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 まず、家族を失った兄妹が復讐を誓う中で、絆を深めあいながら成長していく姿が感動的です。また、物語が進むにつれて明かされる意外な展開や、複雑に絡み合うミステリー要素が最後まで読書を引き込む魅力があります。青春、家族愛、そして真実との向き合い方について深く考えさせられる一冊です。ドラマにもなっているので、合わせて楽しむのもおすすめです。

（齋藤あかり）

東野圭吾

『人魚の眠る家』（幻冬舎）

913.6/ヒ

◆離婚寸前の夫婦のもとに、娘がプールで溺れてしまい、医師が脳死を告げる中、いったんは臓器提供を受け入れたが、奇跡を信じて、娘の介助生活を開始することになる。しかし、ある青年の研究が親子の運命を狂わせていくことになる。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 題名に惹かれて読むことにしたのですが、題名と違い、内容は脳死状態となってしまった娘を持つ夫婦の話だったので、とても考えさせられるところです。

（黒田かれん）

東野圭吾

『マスカレードナイト』（集英社）

913.6/ヒ

◆ホテルのカウントダウンパーティーに犯人が現れるという密告状が警察庁に届く。警察は、潜入捜査のため、刑事がフロントに立つこととなった。仮面舞踏会が迫る中、犯人を捕まえるために奮闘するミステリーです。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 刑事とホテルマンの掛け合いが面白く、見どころです。

（日高美咲）

**東野圭吾**  
**『魔力の胎動』 (KADOKAWA)**

913.6/ヒ

◆相談事をよくされる整体師がいろいろな人の相談事についていると、一つの共通のことに繋がる。謎の力を持つ女の子とその相談事を解決していく話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】ラプラスの魔女の続きになっていて、読んでいてドキドキする本。最後の結末までどうなるかわからないのが面白い。

(極楽地希寧子)

**百田尚樹**  
**『永遠の0』 (講談社)**

913.6/ヒ

◆終戦から60年目の夏、健太郎は死んだ祖父のことを調べていました。天才だが臆病者で想像と違う人物像に戸惑いつつも、1つの謎が浮かんできます。記憶の一部が揃う時、明らかになる真実とは何なのかというストーリーになっています。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】「娘に会うまでは死ねない、妻との約束を守るために」と言っているセリフがあるのですが、そう言い続けた男はなぜか自ら零戦に乗り、命を落としました。その理由が何なのか注目すべき点だと思います。内容は少し難しかったですが、命をかける覚悟の重さや色んな大切さを改めて知ることができるのでオススメです。

(吉田心愛来)

**百田尚樹**  
**『フォルトウナの瞳』 (新潮社)**

913.6/ヒ

◆他人の死の予兆を見ることができる特殊能力をもつ主人公が、生死を賭けて愛する女性の死を回避しようとする。主人公の葛藤を描いた物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】読んでいるうちにどんどん物語の世界に没入できるところ。

(岩松夏菜)

**ぴよぴーよ速報**  
**『小学生でもわかる世界史』 (朝日新聞出版)**

209/P

◆各国の時代の流れが、堅苦しい表現を省いてわかりやすく解説されています。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】世界史が苦手な人ほど読んでもらいたいです！ 全ページカラーで沢山イラストを用いており、楽しく読むことができます。

(大久保莉子)

**ブレイディみかこ**

**『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 (新潮社) 376. 333/ブ**

◆アイルランド人の父と日本人の母を持つ主人公がイギリスにある人種も貧富の差も様々な元底辺中学校に通い、様々な出来事が起こる中で、お母さんと一緒に悩み考え、乗り越えていく。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 イギリスのリアルな生活を通して、多様性、アイデンティティについて考えさせられる本。

(清水花音)

**辺見じゅん**

**『収容所 (ラーゲリ) から来た遺書』 (文藝春秋) 916/へ**

◆シベリア強制収容所に、捕虜として抑留された山本幡男一等兵。妻やまだ幼い4人の子供と離れ離れになったまま、消息もつかめない。栄養失調や過酷な労働作業で命を落とす者、自ら命を断つ者が出るなか、常に帰国する日を待ち、人間としての尊厳、生きる希望を持ち続けた男の話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 どんなに辛いことがあっても、めげずに希望を持って生きること、周りの人たちにも希望を与え、肉体的にも、精神的にもどん底の中、冷静で愛のある言葉を、家族に残すことができたというところに感動しました。

(瀬村友美香)

**町田そのこ**

**『52ヘルツのクジラたち』 (中央公論新社) 913. 6/Machi**

◆自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う話です。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 この本は本屋大賞を受賞しており、近年よく問題になる虐待やDVなど重い問題をテーマにしています。読んでいてとても考えさせられる作品で、好みが分かれますが面白かったです。

(関川葉月)

◆実母からネグレクトを受けた過去をもつ主人公の三島貴瑚が移住先で虐待を受けている少年と出会い、かつての自分の姿と重ねて少年を助け出そうとする。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 重いテーマの話だが、どんどん読み進めることができた。タイトルの意味も考えた。

(山本佳奈)

**三浦しをん**

**『風が強く吹いている』 (新潮社) 913. 6/ミ**

◆清瀬と蔵原は無謀にも陸上とかけ離れていた者たちと、箱根駅伝に望む。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 仲間割れをしつつも最後は、一致団結する。

(高木陽菜)

**水野敬也**

**『夢をかなえるゾウ』(飛鳥新社)**

913.6/ミ

◆何をしても三日坊主になってしまう主人公のサラリーマンの前にガネーシャと名乗るゾウの見た目をした奇妙な生き物が現れ、主人公を成功に導いていく。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】成功する人の習慣や行動を知ることができ、実践してみたいくなる。

(羽田秋彦)

**湊かなえ**

**『母性』(新潮社)**

913.6/Mina

◆女子高生が自宅の庭で倒れているのが発見された。世間は事故か自殺かと騒ぎ出す。そんな中、愛することのできない母親の手記と、愛されたかった娘の回想が展開される。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】母親の手記と娘の回想。同じ出来事を見ているはずだが度々食い違う。それは私たちの生活の中でも経験があるはず。

(谷口彩弥)

**湊かなえ**

**『豆の上で眠る』(新潮社)**

913.6/ミ

◆小学1年生の時、主人公・結衣子の姉・万佑子が失踪する。それから2年後、突然姉を名乗る見知らぬ少女が帰ってきた。喜ぶ家族の中で大学生になった今でも主人公は姉に違和感を抱き続け、真実に迫る。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】過去を遡って真実に迫っていく、最後まで結末がわからない展開ばかりで面白いです。

(谷口実優)

**宮沢賢治**

**『銀河鉄道の夜』(岩波書店)**

913.6/ミ

◆気弱で孤独な少年ジョバンニと親友のカムパネルラが、銀河鉄道で天の川に沿って南十字星へと向かう銀河の旅である。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】「世界中の人々が幸福でなければ、自分の幸せはない」と考えていた賢治は、その思いと大切な存在を失った悲しみを銀河鉄道に乗せて、本当の幸せを探し、1人でも多くの人を幸せにしたかったのだろう。

(藤田和海)

**宮島未奈**

**『成瀬は天下を取りにいく』(新潮社)**

913.6/Miya

◆2020年、中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍に閉店を控える西武大津店に毎日通い、中継に映るといふのだが……。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】M-1に挑戦したかと思えば、自身の髪で長期実験に取り組み、市民憲章は暗記して全うする。今日も全力で我が道を突き進む成瀬あかり。読むにつれて主人公の「沼にハマって」いき、徐々に面白くなる。

(山田美命)

村田沙耶香

『コンビニ人間』(文藝春秋)

913.6/ム

◆社会に馴染めないため、18年間コンビニエンスストアで働いている主人公が、ある男性との出会いを通じて、自己のアイデンティティと社会の期待と葛藤に向き合っていく話です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】コンビニという私たちにとって、身近で小さな世界を題材にしており、引き込まれます。「普通」とは何かを考えることができる、いい機会になると思いますので是非読んでみてください。

(清水花純)

◆社会に馴染めない主人公が自分の生き方に疑問を持ち始め、白羽という男性との出会いを通じて自己のアイデンティティと社会の期待との葛藤に向き合っていく物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】人間が思っている「普通」とは何かを考えられる小説で、ページ数も少なく読書が好きでない人にもおすすめです。

(西口かれん)

山田悠介

『あそこの席』(幻冬舎)

913.6/ヤ

◆転校してきた子があそこの席に座ると次々と死んでしまう。あそこの席は呪いの席か？それとも誰かと関わりがあるのか？嫌がらせから始まる、転校生は死んでしまうのか、それとも。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】読んでるうちに心臓が飛び出すくらい、次に何が起こるか予想不可能な本です。話の終盤になると、自分もその場にいるような感じがして心臓がドクドクします。ぜひ読んでみて、あそこの席の謎を解き明かしてみてください。

(李明珮)

山田悠介

『サブスクの子と呼ばれて』(河出書房新社)

913.6/Yama

◆人材サブスクサービスが普及した日本で、児童養護施設で育った怜と灰花が違法な未成年のサービスの果てに、狂気の事件に巻き込まれていく話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】最後まで一気に読みたくなります。

(櫻根菜々子)

優衣羽

『僕と君の365日』(ポプラ社)

913.6/ユ

◆色彩が失われて1年で死に至る無彩病だと知らされ、自暴自棄になりかけた高校生・新藤蒼也。そんな彼が進学クラスから自ら希望して落ちてきた美少女・立波緋奈と契約のような365日間の恋を始める物語。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】恋愛小説は先が読めるし、話の薄いものが多いと思ってたが、この作品は他とは展開が違っている点。

(中島梨緒)

**横溝正史**  
**『女王蜂』 (KADOKAWA)**

918. 68/Yoko/11

◆絶世の美女・大道寺智子の元に来た「あの娘のまえには多くの男の血が流されるであろう。彼女は女王蜂である…」謎めいた脅迫状には衝撃の血みどろ展開が待っていた。

【自分が読んだ学年】 中学生

【お勧めの点】 難しかった。ものすごい世界観の話。

(真本帆乃夏)

**吉田修一**  
**『国宝』 (朝日新聞出版)**

913. 6/ヨ/1

◆長崎の任侠一族の長男として生まれた喜久雄が、父の死を期に縁を頼って上方歌舞伎の一門に引き取られ、一門の跡取りである俊介と切磋琢磨しながら女形を目指すお話です。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 歌舞伎を題材としているので難しく感じるかもしれませんが、一度読み始めると一気に最後まで読んでしまいたいと思える作品です。登場人物たちと同じ時代を生きて、自然と彼らを応援してしまいます。辛い出来事や役者としての葛藤を経験するなかで全員が無形の芸術を創り上げていく姿は本当に感動します。読み終えた時の満足感は、一本の芝居を見終わった感覚に似ていると思います。ぜひ一度読んでみてください。

(南波咲希)

**吉野源三郎**  
**『君たちはどう生きるか』 (岩波書店)**

159. 5/ヨ

◆本書の主人公は、コペル君というあだ名の15歳の少年である。成績優秀だが、いたずら好きで憎めないところのあるコペル君は、自分の見た情景や、学校の友人たちの行動をきっかけに、哲学的な考えを深めていく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 現実の世界は、暗いニュースばかりだが、「悪意のある世界」の中でも、ポジティブでいること、明るい未来を信じることを伝えてくれる本。

(坂東華怜)

**ユヴァル・ノア・ハラリ**  
**『サピエンス全史』 (河出書房新社)**

209/H/1 (b)

◆帝国・科学・資本を中心に未来への幻想が生まれる歴史を解く。文明は人類を幸福にしたのか？ 世界的ベストセラー。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 現在、地球上のあらゆる生き物の中で、人類が最も力を持ったのは、なぜなのか。難しく読むのに時間がかかるが、これを読むだけで社会の見方が変わる。

(安井綾花)

**アガサ・クリスティ**  
**『ナイルに死す』 (早川書房)**

933. 7/ク/15

◆元婚約者から嫌がらせを受ける裕福な女性。そして彼女はクルーズの中で殺害されてしまう。捜査を進めるポワロだが、乗客が次々に殺されてしまう。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 事件が起こる前の状況、複雑な人間関係が伏線になっていて面白い。

(香美沙和)

**アンネ・フランク**  
**『アンネの童話集：完訳』（小学館）**

949. 338/F

◆著者アンネ・フランクがアムステルダムの隠れ家で綴った童話とエッセイたち。14歳の女の子が隠れ家で書いたとは思えないぐらい、一つひとつのお話がキラキラしていて、読み進めるたびにワクワクするお話です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】正直高校生にこの本？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、高校生だからこそ読んでほしい作品です。

(石田陽莉)

**アンネ・フランク**  
**『アンネの日記』（文藝春秋）**

949. 35/フ

◆隠れ家に移る直前の1942年6月12日、13歳の誕生日に両親から日記帳を贈られたのをきっかけに、のちにはノートや紙片を使って、密告によって逮捕されるまでの2年間、隠れ家の生活や家族のこと、そして異常な環境にあって急速に発達した少女期の心の軌跡を、あふれるような感受性と深い洞察力をもってつづったのがこの日記である。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】アンネ・フランクは、私たちが想像もできないほど苦しい状況にいたと思う。当たり前のように毎日を送れるということが、どれだけ大切か思い知らされる。

(黒田彩華)

**アンソニー・ドーア**  
**『すべての見えない光』（新潮社）**

933. 7/D

◆第二次世界大戦のフランスを舞台に、盲目のフランス人少女と、若いドイツ人少年の人生が交差していく感動的な物語です。少女と少年が違う境遇の中で生きていく中、戦争が彼らに容赦なく迫り、やがて運命的な出会いが訪れることで、彼らの人生は大きく変わっていきます。戦争の悲惨さの中にも、愛や希望が輝く瞬間があるというメッセージが込められています。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】この物語は、単なる戦争小説ではありません。人生の不確かさや、目に見えない大切なもの、そして人と人とのつながりについて深く考えさせられる一冊です。この本を読めば、戦争の悲劇的な一面に触れると同時に、困難な状況下でも希望を見出すことができるという普遍的なメッセージに心を打たれると思います。

(阿部利里香)

**サン・テグジュペリ**  
**『星の王子さま』（新潮社）**

953. 7/サ

◆砂漠で遭難した操縦士と、さまざまな惑星を旅する小さな王子との出会いを描いています。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】抽象的で難しいお話だった。

(平石珠梨)

**クリスティー・ワトスン**

**『わたしが看護師だったころ 命の聲に耳を傾けた20年』 (早川書房) 498.14/W**

◆看護師として20年間働く中で経験したことや、出会った患者さんから多くのことを学ぶ姿が描かれています。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】患者さんの容体や感じたことなどが直接的に書かれていて、臨場感があるところ。

(岡田南萌)

**シンディ・スピーゲル**

(ディスカヴァー・トゥエンティワン) 159/S

**『毎日、もっとよくなっていく!ポジティブな私になる365日』**

◆ポジティブ心理学と神経科学による自己肯定感を上げ、1日の質を高めるメッセージ集。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】落ち込んだ時ややる気が出ない時、孤独を感じた時にポジティブになれる言葉集です。

(原莉於)

**ダニエル・キイス**

**『アルジャーノンに花束を』 (早川書房)**

933.7/キ

◆知能に障害のある主人公が、手術を受けて頭が良くなるお話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】主人公の日記という形式なので、主人公の心情が痛いほど伝わってくる。主人公が、知能的にだけではなく、人間的にも成長していく様子が描かれていて感動的。

(伊達教乃)

**フォードル・ドストエフスキー**

**『罪と罰』 (光文社)**

983/ド/1

◆19世紀、酷暑のペテルブルグ。戸棚のような小部屋で鬱々と暮らす貧乏学生ラスコーリニコフは、ある夕暮れ時、高利貸しの老婆を斧で叩き殺す。「非凡人は凡人の法律や道徳を踏み越えてもいい」という論理に基づく凶行だったが、犯行の後、激しい苦悶がのしかかる。人間存在の意味を問う壮大な物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】金貸しの老婆を殺してしまう学生ラスコーリニコフ。一度踏み越えると二度と戻れない、罪の境界を超えてしまう前後、そして変容する心理描写が密で面白いです。

(高語欣)

**ガブリエル・ガルシア・マルケス**

**『百年の孤独』 (新潮社)**

963/マ

◆奇妙な寒村を開墾しながら孤独に生きる一族。その宿命を描いた、目も眩む百年の物語。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】ある先住民族の起こりから衰退までを世代別で読むことができます。時代の流れが現実と沿っているのが、考察しがいがあると思います。場面の切り替わりが多いのですが、それはおばあちゃんとかが昔話をしてるという感じで書かれているらしく、そう思って読むと、さらにこの本の魅力が上がると思います。

(村上神楽)

**J・K・ローリング**

**『ハリーポッターと賢者の石』(静山社)**

933.7/ロ/1-1

- ◆魔法使いになる話。  
【自分が読んだ学年】 高1  
【お勧めの点】 色々な呪文が出てくるところ。

(山田玲奈)

◆いじわるな親戚ダーズリー家の元でいじめられながら暮らしていたハリー・ポッター。11歳の誕生日を迎えようとしていたある日、ハリーの元に、ホグワーツ魔法魔術学校から入学許可証が届きます。闇の魔法使いヴォルデモートと対峙した際に生き残った、魔法使いの男の子の話。

- 【自分が読んだ学年】 小学生以下  
【お勧めの点】 今はネットフリヤU-NEXTで、映画として見ることができる「ハリーポッター」ですが、時間を考えずにダラダラできるなら、紙の本で読みたいと思えるところがポイント。

(武田紗矢香)

**ジャン・ポール・サルトル**

**『嘔吐』(人文書院)**

953.7/S

◆「嘔吐」と聞いてもパッとしませんが、もとのフランス語のタイトルは「La Nausée」で直訳すれば「吐き気」です。主人公ロカンタンは何気ない喜びや快樂に溢れた生活を送っていましたが、ある日からあらゆる事に精神的な吐き気を覚えるようになります。なんとなくした嫌悪感はずっと増え、嘔吐の理由が何なのかを考えさせられるストーリーです。

- 【自分が読んだ学年】 高2  
【お勧めの点】 たまにふと自己嫌悪を覚えることはありませんか？ なぜかわからないけど、なんとなく全てが嫌。そんな抽象的で説明のつかない感情を哲学的な概念と結びつけたのが、この小説と著者の魅力だと思います。私もあと数回は読まないし理解できないような難しいところもありますが、自分なりにこの本からのメッセージを考えてみるのもいいと思います。

(林夏璃明)

**ジェフリー・ディーヴァー**

**『007 白紙委任状』(文藝春秋)**

933.7/デ/1

◆英国情報諜報員であるジェームズ・ボンドがテロを未然に防ぐため、世界中で任務に奮闘するスパイ小説です。

- 【自分が読んだ学年】 中学生  
【お勧めの点】 007シリーズを知らない人でも、一つの物語として十分に楽しめる。アクションシーンも豊富で、最後まで映画さながらの興奮を持って、読み切ることができる。

(鈴木湛)

ジョン・ボイン

『縞模様のパジャマの少年』（岩波書店）

933.8/B

◆第2次世界大戦下のドイツ、ベルリンが舞台であり、ナチス将校の父をもつ少年のブルーノは、行くことを禁じられた裏庭の先で、フェンスに囲まれた“農場”を発見した。そこはユダヤ人強制収容所であり、収監されている縞模様の囚人服を着た少年のシュムエルとフェンス越しに知り合うことになる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】子供の純粋さが時に残酷な結果になることがあるということが、表現されている。この本はただ物語を楽しむだけでなく、第二次世界大戦の悲惨さや歴史も学ぶことができる。また英語版もあるので、気になる人はぜひ読んでみてほしい。ハッピーエンドではないが、当時の戦争に対する憎しみや理不尽さが、強く感じられる作品だった。

（佐野文南）

マーガレット・ワイズ・ブラウン

『たいせつなこと』（フレーベル館）

P93/W

◆目の前に見えたグラスからどんどん広がる物の性質にちなんだ、そのものにとって本質を掴んだ“たいせつなこと”に気付ける一冊です。

【自分が読んだ学年】 小学生以下

【お勧めの点】情報化社会の今、数多の情報を処理していくうちに、本質となる思考ですら節約されてしまうことがあります。そんな自分を見失ってしまいそうな現代で、あなたの“たいせつなもの”をやさしい語り口調の中でもう一度見つめ直すことができます。著者の考えは高2の公共の授業でも扱われるので、ぜひ読んでみてください。

（三好由衣）

スチュアート・リッチー

『Science Fictions』（ダイヤモンド社）

407/R

◆有名な科学実験や論文を紹介しながら、実験のプロセスにおける不正や誇張を批判しています。批判だけでなく、どのように改善すべきかも記載されている真実の書。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】疑うということすら思わなかった科学の世界を、懐疑的な視点で見つめられる本です。新しい価値観が身につくので、是非読んでみてください。

（藤長玲）

ティナ・シーリグ (CCCメディアハウス) 159/S  
『20歳のときに知っておきたかったこと～スタンフォード大学集中講義～』

◆スタンフォード大学の起業家育成の講義内容が、簡潔にまとめられている。筆者が20歳になる息子に向けて書いた本。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】失敗から学ぶ方法やその大切さを理解し、自らの目標に向けて一步を踏み出そうと思える素晴らしい本です。

(川本結花)

ウィリアム・シェイクスピア  
『ハムレット』(筑摩書房) 932.5/シ/1

◆デンマークの王子であるハムレットが、父親を毒殺して王位につく。王妃であった母を妻にした叔父への復讐劇。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】シェイクスピアの四大悲劇の一つである『ハムレット』。幽霊、道化、劇中劇、悲恋など様々な要素が盛り込まれていて、読むたびに違う視点が出てきます。また舞台台詞のため、一言の密着度が濃く、テンポも良い作品です。

(井藤愛莉)